
お年玉戦争

散らし屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お年玉戦争

【コード】

N0959BA

【作者名】

散らし屋

【あらすじ】

それは、男たちの戦い
！！

0円

時は2012年、1/1である。

わたくし、前上新斗にいとは部屋の隅で震えていた。

頭を抱え、考える人の真似事をする。部屋の四隅に設置された内
の一つに向き合いながら、わたくしは怨声を漏らす。

「やめる、やめるっ……この部屋から僕を出そうというのか……ふざけるなア……！！それは万死に値する侮辱だぞ！ 自宅警備員に対する冒涇だ！」

扉の外から『あらやだ、この子は。危ないわね』などと聞こえてきたが、わたくしの心には響かない。ITOKOというモンスターが扉を蹴るのだ。ドンガンドンガン、とその音は破壊の化身そのものである。そんなにお年玉が欲しいのか。絶対にくれてやるものか。

「やめて、ママちゃん！ 僕は外に出たくないんだ！」

わたくし(42)はママちゃん(73)に対してそう言うのだった。年齢的にこの呼び名はアウトだ。

見る者が吐き気を覚えること必須だ。歩く公害だった。いや、引きこもる公害だ。更にタチが悪い。

しかし、それもとうとう終わりだ。

「ふん！ とつとと出てこんか！」

恐怖の大魔王の登場である。厳ついこの声は、わたくしの祖父(180)の声である。いい加減くたばれジジィ。どんだけ長生き

してんだ。妖怪か。

「いけ！ 入れ歯！」

いけ！ ピカ ユウのノリだ。

というか いけ！ ピカチュウ！ のモロパクリだった。ちなみに祖々父は中国人である。いや、だからどうという事はない。

セリフだけ見れば意味が分からない事この上無い。ところがどこい、扉が爆発音を上げて吹き飛んでしまうのだった。弾丸の速度で部屋に飛び込んできて、壁に大穴を空けたのは驚いたことに入れ歯だった。

とんでもない残骸を見た。くしゃみを加速を得て、加速入れ歯砲が行使されたのだ。翌日、ブラジルで大穴が空いて1800人が死んだのだが、それと関連はないはずだ。あつてはいけない。

そうして現れた兇漢は、何故かトランクスー丁だった。筋骨隆々の体型と、スキンヘッドの頭部。彫りの深い貌。おまけに目は殺気を帯びている。妖怪ではなく、モンスターだった。

しかし（180）なのである。当分くたばりそうにない。

「ふあ、ふああふあ！」

だが、所詮は（180）だった。加速入れ歯砲の反動のせいでもとにも喋れていない。

しかし、わたくしは祖々父に引きずられて居間へと連れて行かれてしまうのだった。自宅警備員という仕事は厳しい。まっとうに働いているというのに、何故か差別の目を向けられるのだ。だからわたくしはあんまり正月が好きではない。というか嫌いだった。

大体、お年玉ってイベントがおかしいんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0959ba/>

お年玉戦争

2012年1月2日03時52分発行